



Title	北原敦教授のご退官にあたって
Author(s)	栗生沢, 猛夫
Citation	西洋史論集, 4, 137-138
Issue Date	2001-03-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/37439
Type	bulletin (article)
File Information	4_137-138.pdf



[Instructions for use](#)

北原敦教授のご退官にあたって

西洋史学講座 栗生沢 猛 夫

北原敦教授は本年三月をもって退官される。先生は一九七二年に本学に赴任され、二十九年間文学部西洋史学講座助教授、教授（一九九五年から歴史文化論講座教授）として勤められた。先生のご経歴、業績は以下に掲げる通りであるが、先生は本学赴任以前から『思想』に論文を掲載されるなど、華々しい活躍をなされていた。赴任されて後も先生は従来の歴史学にたいするその批判的な態度によって、私たちが院生、学生に強いインパクトを与えられたように思う。広い視野、柔軟な発想、人間にたいする深い理解、歴史学研究の動向への強い関心、新しい時代における旧きものへのまなざし、そしてイタリアへの愛着、先生を特徴づけるものを、失礼を顧みずこう表現させていただくが、それもそれほど外的外れではないと思う。こうした視点から先生はときに私たちの考え方を根本から揺すぶり、全く新たに自分の見解を組み立て直すことを要求されたように思う。先生は多くの学生、院生を育てられたが、その教育の仕方は通常の「教師」のそれとは違っていた。先生は学生と親しく接することを好まれたけれども、究極的には突き放して自分で考えることを求められる、そういう教育であったと思う。このようにして多くの者が自立的な人間になっていったのである。

本号は北原先生に捧げられる。先生からもご論考を頂いたが、その他の寄稿の内容が記念論集にふさわしいものであるかどうかはわからない。寄稿者はそれなりに努力したことをもって受け入れていただかない。先生のこれまでのご尽力に感謝し、合わせて今後のご活躍とご健康を祈念して簡単な送別の辞としたい。

北原敦教授経歴

- 一九三七年十一月二十五日 東京都世田谷区に生まれる
- 一九五六年三月 埼玉県立浦和高等学校卒業
- 一九五七年四月 東京大学教養学部入学
- 一九六一年三月 東京大学文学部西洋史学科卒業
- 一九六一年四月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程修士課程入学
- 一九六四年三月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程修士課程修了
- 一九六四年四月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程博士課程入学
- (一九六四年十一月～一九六七年四月
イタリア歴史研究所奨学生としてイタリア留学)
- 一九六八年三月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程博士課程退学
- 一九六八年四月 東京大学文学部(西洋史学科) 助手
- 一九七二年四月 北海道大学文学部助教授(史学科西洋史学第一講座)
- 一九九一年四月 北海道大学文学部教授(西洋史学第一講座)
- 一九九五年四月 北海道大学文学部歴史文化論講座教授
- 一九九六年二月 北海道大学評議員(二〇〇〇年三月)
- 一九九八年四月 北海道大学文学部長(二〇〇〇年三月)